

議事録

会議の名称	令和4年度第1回西東京市総合教育会議
開催日時	令和4年5月17日（火） 午前10時から11時35分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎4階 第1・2委員会室
出席者	池澤市長、萱野副市長、木村教育長、米森教育長職務代理者、後藤教育委員会委員、山田教育委員会委員、服部教育委員会委員、今井教育委員会委員 (事務局) 保谷企画部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、樽見企画部主幹（企画政策課）、小倉企画政策課企画政策担当主査、利根川企画政策課企画政策担当主任、児山子育て支援部長、宮崎子ども家庭支援センター長、松本教育部長、清水教育部特命担当部長、掛谷教育部副参与兼教育企画課長、佐々木教育企画課課長補佐兼企画調整係長、山縣教育指導課長、三田統括指導主事、吉田社会教育課長 (傍聴人) 2人
議題	1 協議事項 令和4年度の教育に関する重点施策について 2 事業報告及び討議 (1) 令和3年度虐待通報件数について (2) 西東京市子ども家庭総合支援拠点の設置（令和4年4月）について (3) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進について (4) 「西東京市子どもGIGAスクール委員会」の取組について 3 その他
会議資料の名称	資料1 令和4年度の教育に関する重点施策（案）について 資料2 虐待通報件数について（令和3年度） 資料3 西東京市子ども家庭総合支援拠点の設置（令和4年4月）について 資料4 「社会に開かれた教育課程」の実現のためのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 資料5 「西東京市子どもGIGAスクール委員会」の取組について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○市長：</p> <p>ただいまから、令和4年度第1回西東京市総合教育会議を開会します。</p> <p>本日の議題は、「令和4年度の教育に関する重点施策について」、「事業報告及び討議」として各部署からの取組事項の説明、「その他」の3議題です。</p> <p>○市長：</p> <p>本日の会議は、西東京市総合教育会議会議規則に基づき公開します。傍聴は、西東京市総合教育会議傍聴要領に基づき10席までの傍聴を認めます。会議の議事録は、発言者の発言内容ごとの要点記録とします。御異議ございませんか。</p> <p>(異議なし)</p>	

○市長：

傍聴の申出があったため、傍聴希望者の入場を許可します。

○市長：

本日の総合教育会議は、今年度第1回目の会議です。

今年度は、本市の最上位計画となる次期総合計画の策定作業が本格化します。策定に当たっては、策定審議会の委員に学生を2名任命し、御意見をいただいているほか、昨年度は、教育委員会を通じて、市立中学校2年生の皆さんにまちづくりについてのアンケート調査に御協力いただきました。

私自身、「子どもにやさしいまち」、そして、「子どもが『ど真ん中』のまちづくり」を目指しています。そのために、次世代を担う世代の意見をしっかりと取り入れていくことが必要だと感じています。また、今年度は、教育計画の策定も本格化しますので、何卒よろしくお願いします。

議題1 協議事項 令和4年度の教育に関する重点施策について

○市長：

議題1「令和4年度の教育に関する重点施策について」を取り上げます。
企画政策課から今年度の重点施策の（案）について説明をお願いします。

（事務局説明）

○市長：

事務局から今年度の重点施策の案が提示されました。事務局の説明にもありましたが、教育に関する重点施策については、昨年度大きく見直しをいたしました。

今年度は昨年度から引き続き、3点を重点施策とし、各事業を実施してまいりたいと思います。まず、このことについて御意見をお聞かせください。

○米森教育長職務代理者：

ヤングケアラー対策やウクライナからの避難民対策について、教育委員会だけでなく、幅広い課題だと認識しています。喫緊の課題について取組を教えてください。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

ヤングケアラーに関して、市民向けの啓発講演会や、子ども向けのリーフレットの作成等、教育委員会と連携した対応を予定しています。

○副市長：

ウクライナからの避難民については、まずは国が引き受けるとの認識ですが、基礎自治体としても、東京都等と連携して取り組むたいと考えています。

○山田教育委員会委員：

資料からは重点施策に紐づく実施事業の詳細が伝わりづらいため、事業評価が出来ません。

今年度、具体的にどのようなことに取り組んでいくのか見えるように工夫していただきたいです。

○市長：
事務局で整理し、検討したいと思います。

○今井教育委員会委員：
昨年度の実施事業にありました、「学校地域にしとうきょう応援会議」について活動状況を伺います。

○佐野企画部副参与兼企画政策課長：
昨年度予定していたコール田無における発表の場については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止といたしました。各地域の地域性を発揮できる機会の創出について、引き続き、検討していきたいと考えています。

○今井教育委員会委員：
学校トイレの改修事業については西東京市立小中学校PTA・保護者の会連絡会でも話題となっていますので、進ちょくが見込めることは良いことだと思いました。

○服部教育委員会委員：
公民館のロビー機能強化について、居場所機能が強化されたことが伝わるよう、表現を分かりやすくしていただきたいと思います。地域の資源としての公民館がうたわれると良いと思いました。

○清水教育部特命担当部長：
公民館施設を活用した居場所づくりを進めていきたいと思います。

○市長：
様々な御意見をいただきありがとうございました。
今年度の重点施策については、案のとおり決定したいと思います。実施事業については、事務局において詳細に整理をしていきます。

議題2 事業報告及び討議

○市長：
それでは、議題2「事業報告及び討議」を取り上げます。
「(1) 令和3年度虐待通報件数について」、説明をお願いします。

(事務局説明)

○市長：
事務局から説明がありました。御意見等がありましたらお願いします。

○米森教育長職務代理者：
経路別虐待件数について、経路ごとの虐待内容に特徴があれば教えていただけますか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：
学校では、外見的な傷や、子どもとの対話の中での気付きによるものが多い傾向です。保育園についても外見的な傷、さらにネグレクトの傾向を発見することが多いです。資料に掲

載している虐待件数には、軽微なものから重いものまで様々含まれています。

○山田教育委員会委員：

継続している相談件数の数値について把握されていますか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

昨年度からの継続件数は320件ほどあります。

○山田教育委員会委員：

昨年度から比較して、1,000件程度は解決しているとのことでしょうか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

昨年度以前から継続しているものもありますが、状況が一定程度安定したところで終結とみなしています。

○山田教育委員会委員：

年間1,600件程度の相談を扱っていることとなりますが、センターとしての機能が発揮されるだけの予算や、人員については充足していますか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

人員については、国の基準を満たした配置となっています。

○服部教育委員会委員：

西東京市における新型コロナウイルス感染症の感染者数は多摩地域の中でも多いと思います。虐待件数については、他自治体と比較してどのような特徴があるのでしょうか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

小平児童相談所の報告では、管内の虐待件数について、西東京市に固有した特徴はないと伺っています。

○後藤教育委員会委員：

虐待の未然防止で考えたとき、子育て支援に関する講座や研修への参加者が減少しているようであれば、なんらかの対策が必要と考えますがいかがでしょうか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

子ども家庭支援センターの管轄として子育て広場があります。こちらでは、新型コロナウイルス感染症による制限はあったものの、多くの利用がありました。保護者とのつながりなど、様々な交流が持てるように工夫しています。

○服部教育委員会委員：

言語を獲得してくる年代の子どもを持つ保護者自身の心の育ちに関する支援を、行政として検討していただきたいと思います。

○山田教育委員会委員：

悲惨な事例の報道等を見ていると、親が社会的に孤立しているケースが多いと感じます。他自治体のケースから学ぶことはありますか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

重篤なケースについて、様々な背景や状況等を児童相談所がまとめた資料があります。これらを活用し、関係機関と連携して対応することも必要と考えています。

○市長：

「(2) 西東京市子ども家庭総合支援拠点の設置（令和4年4月）について」、説明をお願いします。

（事務局説明）

○市長：

事務局から説明がありました。

体制の強化や、様々な角度からの取組で子どもの見守り、支援をするための整備であります。

この件について、質疑等がありましたらお願いします。

○米森教育長職務代理者：

幼稚園、保育所と学校との連携についてどのようにお考えでしょうか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

要保護児童対策地域協議会の中で連携ができています。子ども家庭支援センターでは、小学校への入学に際し、虐待についての情報連携を行うこととしています。次の支援につなげるため、子ども家庭総合支援拠点が中心となって取り組んでいきたいと考えます。

○山田教育委員会委員：

相談員やコーディネーターについて資格要件はあるのでしょうか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

国の基準に、資格要件があります。社会福祉士などの資格要件のほか、一定の研修、経験年数等の要件もあります。

○山田教育委員会委員：

全国の自治体で増員されると、人材の枯渇が懸念されますが、いかがでしょうか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

人材の確保が困難な状況もあると聞いています。良い人材を確保できるよう、努力いたします。

○後藤教育委員会委員：

今回の体制整備に係る保護者等への周知について、既存のツール以外でどのようなものを想定していますか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

子ども家庭支援センターのリーフレットを、学校を通じて配布しています。更なる周知を図りたいと考えています。

○後藤教育委員会委員：

保護者が集まるような場や機会でも周知に努めていただきたいと思います。

○服部教育委員会委員：

子ども食堂推進事業について、子ども食堂を行政がサポートしていくと理解しています。子ども食堂の周知についても行っていくということでもよろしいでしょうか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

多くの方に子ども食堂を知っていただく取組を実施していきます。

○服部教育委員会委員：

就学前の子どもの様子が少し気になります。幼稚園では小学校へ提出する就学支援シートが存在すると思いますが、小規模な保育所でもそのような体制が構築されているのでしょうか。

○宮崎子ども家庭支援センター長：

小さな保育所へも配布していると認識しています。

○今井教育委員会委員：

相談先を求めている保護者は多いと思います。必要としている方へ、情報が伝わるよう工夫をしていただきたいと思います。

○市長：

「(3) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進について」、説明をお願いします。

(事務局説明)

○市長：

事務局から説明がありました。より分かりやすく、PDCAのサイクルで整理をいたしました。この件について、質疑等がありましたらお願いします。

○後藤教育委員会委員：

教育委員会だけでなく、市長部局とどのような形で情報共有を図ったのか教えていただきたいです。

○吉田社会教育課長：

市長部局に関連する内容については、連携を図りながら進めていきたいと思っています。

○後藤教育委員会委員：

子どものための視点ということを大事にさせていただいて、情報の共有をお願いしたいと思います。

○山田教育委員会委員：

学校間での取組の差がなくなることを目的とした、協議会や、コーディネーター間での情報共有の場はあるのでしょうか。

○吉田社会教育課長：

統括コーディネーターが、未実施校や活動に困っている学校へアドバイスをを行い、底上げをする仕組みを作っています。

○米森教育長職務代理者：

活動の目的・目標は必ずしも学校の先生が設定できるものではありません。地域コーディネーターが重要な役割を担っていると思いますので、地域コーディネーターの活動をどのようにサポートしていくかを検討していただきたいです。

○吉田社会教育課長：

社会教育課の職員が調整に入るなど、コーディネーターの負担を軽減できるよう進めていきたいと考えています。

○服部教育委員会委員：

子どもが主体となる活動をコントロールできる方にコーディネーターになっていただきたいと考えるのと同時に、行政や学校職員が上手に関わる仕組みの構築をお願いしたいと思います。

○山縣教育指導課長：

校長の役割が大きいと感じています。コーディネーターが行う活動を校長や副校長が一体となって進めていくことが必要だと考えています。学校間での情報共有を図り、地域の方とも意思疎通を図り、取り組んでいきたいと思っています。

○市長：

「4 「西東京市子どもGIGAスクール委員会」の取組について」、説明をお願いします。

(事務局説明)

○市長：

事務局から説明がありました。

この件について、質疑等がありましたらお願いします。

○米森教育長職務代理者：

ルールを啓蒙、啓発するために、中学生が実施することはとても良いことだと感じました。ルールを自分の生活の中に定着させていこうという意味が小学生に見られたので安心しました。

○山田教育委員会委員：

中学生が普及させていく際に、中心となった生徒に反発するような生徒もいるのではないのでしょうか。そういった子どもたちが参画できる場をぜひ設定していただきたいと思います。

○山縣教育指導課長：

無理難題を設定したルールとならないように工夫していきたいと思っています。今後は場を設定し、子どもたちから意見を出してもらい、ルールを精査していきたいと思っています。

○後藤教育委員会委員：

例えば、タブレットを開いた際の壁紙にこのルールや、個人のルールを表示させるなど、工夫していただきたいと思います。

○服部教育委員会委員：

SNSでどのような発言をしたら嫌に感じるかを、体感できるような方法を検討いただきたいと思います。子どもが考えることを大人が邪魔をしない姿勢を引き続き進めていただきたいです。

○山縣教育指導課長：

今後は、保護者の考え方が大事だと考えます。子どもへの周知と同時に大人への周知も図っていきたいと思います。

○今井教育委員会委員：

だんご3兄弟は子どもも知っていました。子どもに親しみを持たせるような仕組みは非常に良いと感じます。GIGAスクール委員会についても機会があれば見させていただきたいと思います。

○市長：

これからも、子どもたちの意見がしっかりと反映される取組を実施していきたいと思います。

議題3 その他

○市長：

事務局より連絡事項を求めます。

(事務局説明：会議資料と会議録の公表、次回開催予定について)

○市長：

最後に、本日の内容を踏まえ、副市長、教育長から意見を求めます。

○副市長：

本日は、市長部局と教育委員会の連携について様々な御意見をいただきました。「子どもが『ど真ん中』のまちづくり」の実現に向けて、連携しながら積極的に取り組んでまいりたいと考えています。タブレットルールの周知をしている様子を動画で見させていただきましたが、全体で10分もかかっていませんでした。子どもが飽きない時間の中で、簡潔に説明と質疑があり感心しました。議題とは離れますが、先日、最近完成した下野谷遺跡公園のトイレを視察しました。雰囲気は調和した造形で非常に良い空間となっていますので、委員の皆様にも是非御覧いただきたいと思います。

○教育長：

この間、学校運営協議会に参加させていただきました。どの学校も、大変意欲的な話し合いがされており、感銘を受けました。まだまだ課題は多いですが、より良いものにしていきたいと考えています。子どもたちにとって、一番の教育環境は顔が分かる関係づくりだと思います。組織づくりだけでなく、お互いに顔が見える関係づくりをしていくことが必要だと

改めて認識しました。これからも様々御意見をいただきながら、子どもたちのために取組を進めていきたいと思ひます。

○市長：

以上で、本日の議題はすべて終了となります。

<閉会>